

第十一回定時社員総会を開催

第十一回定時社員総会を2019年10月25日(金)、弘済会館(東京都千代田区)で開催し、第十期事業報告及び決算、第十一期(2019年9月1日～2020年8月31日)の事業計画及び予算が承認されました。

また、定款第24条第1項、第2項の規定により本定時総会終結をもって理事の任期が満了することにより理事改選を行い、その後の理事会で上杉哲郎理事を会長に選任しました。そして、今後10年を見据えた新たな活動ビジョンとして、

「活力ある都市樹木と人材を育み、アーバンフォレストを生み出す」

We bring up vital urban trees and human resources and create an urban forest.
が提案・承認されました。

上杉哲郎新会長挨拶



このたび新たに会長を拝命しました上杉です。気候変動により異常気象が多発する時代、健全な都市樹木を守り育てる上で、街路樹など都市樹木の診断は、社会的にも重要な課題として認知されつつあります。協会が任意団体として設立されて20年、一般社団法人化して10年が経過し、協会の街路樹診断士や診断業務にかかる技術的蓄積は高く評価を受けるようになりました。協会の活動が、広く社会に求められる時代がやってくるものと確信しています。第11回総会では、新ビジョンとそれに基づく事業計画や、新たな広報委員会の設立と各委員会の役割明確化などの議案をご承認いただきました。会員の皆さまの技術向上と業務の展開につながるよう、役員一丸となって事業計画を着実に実行していきたいと思いますので、ご理解とご協力をよろしくお願い致します。

ここで、簡単に自己紹介させていただきます。私は、1981年4月、造園職として環境庁に入り、主に国立公園をはじめとする自然保護行政に携わってきました。国立公園課長、環境影響評価課長、関東地方環境事務所長などを経て2016年6月に退職、同年9月に株式会社日比谷アメニスに入社し現在に至っています。宮内庁の庭園課長に出向していたとき、皇居内の樹木の管理方針を立てるため樹木診断をお願いし、その後、その方針に沿って危険木の伐採あるいは枝落しを実施する貴重な経験をしました。樹木診断に関することは多くはありませんでしたが、これまでの様々な経験を活かし、協会の発展をバックアップできるよう努めてまいりたいと思います。会員の皆さま、どうぞよろしくお願い致します。

最後に、この20年間、識見と指導力をもってこの協会の発展にご尽力をいただいた神庭前会長に深く感謝申し上げます。

〔新理事名(所属) 敬称略〕

有賀 一郎(サンコーコンサルタント株式会社)

飯田 稔(東邦レオ株式会社)

上杉 哲郎(株式会社日比谷アメニス) ※代表理事(会長)

奥本 寛(株式会社日比谷アメニス)

笠松 滋久(東邦レオ株式会社) ※副代表理事(副会長)

河野 友和（東武緑地株式会社）
三宮 洋（株式会社三宮造園土木）
関根 武（内山緑地建設株式会社）
當内 匡（株式会社庭樹園）
中島 洋一（東邦レオ株式会社）
永石 憲道（ジェイアール東日本コンサルタンツ株式会社）
野上 一志（株式会社野上緑化）
本山 圭一郎（株式会社柳島寿々喜園）
山下 得男（株式会社富士植木） ※副代表理事(副会長)

〔委員会委員長 敬称略〕

事業委員会 野上一志
技術委員会 石井匡史
広報委員会 委員長代行 笠松滋久
（出版委員長）永石憲道
街路樹診断士認定委員会 有賀一郎
資格審査委員会 間庭直行

※広報委員会(出版委員会)は新設。広報委員長の任を担っていただける方を募集しています

※各委員会では、委員として活動していただける方を募集しています

新ビジョンと11期事業計画

■事業計画作成の背景

一般社団法人街路樹診断協会は、第10期において協会設立20周年・法人化10年の節目を迎えました。その記念事業として、今年(2019年)5月に東京・福岡・大阪で開催した国際シンポジウム「世界のアーバンフォレスト政策と樹木のマネジメント」は、国土交通省および環境省など多くの機関から後援をいただき、延べ1,000人に及ぶ参加を得て、成功裡に終えることができました。

今年7月には、国土交通省が「グリーンインフラ推進戦略」を公表しました。これは、平成27年度に閣議決定された国土形成計画(2015～2025年)、第4次社会資本整備重点計画(2015～2020年)で掲げられた「国土の適切な管理」「安全・安心で持続可能な国土」「人口減少・高齢化等に対応した持続可能な地域社会の形成」といった課題の対応策の一つとして、グリーンインフラの取り組みを推進することが盛り込まれたことによる公表でした。グリーンインフラは、平成27年(2015年)国連持続可能な開発サミットで採択された持続可能な開発目標(SDGs、(2016～2030年))との親和性が高い政策と捉えられています。このような社会的背景の中で、当協会が国際シンポジウムを開催してアーバンフォレストについて発信したことは、時宜にかなったことでした。

このような中、7月開催の理事会では、第11期以降の中期運営ビジョンと新体制について議論検討がなされました。当協会の設立時からを振り返ると、設立からの約10年は、東京都による街路樹診断事業の受け皿となりながら診断技術の確立に努めた時期でした。これは「創業期」と位置付けられます。その後の10年は、社会の信頼性を担保するための法人化と診断技術の信頼性を担保する資格制度運営に努めました。これは「展開期」と位置付けられます。そして、アーバンフォレストを発信したこれからの10年を、協会の「発展期」と位置づけ、新たな取り組みを実現していきたいと考えています。

＜20年の歩みと今後の方向性＞

ステージ	1 創業期 1998～2009年	2 展開期 2009～2019年	3 発展期 2019年～
期間	設立から11年間	11年目からの10年間	21年目以降
主テーマ	創業 (診断技術確立)	法人化・資格制度導入 (範囲の拡大)	アーバンフォレスト戦略 (対象の変化)
事業ドメイン	街路樹の診断	都市樹木の診断	都市樹木と人の育成

新ビジョンについて

新たな取り組みのビジョンは「活力ある都市樹木と人材を育み、アーバンフォレストを生み出す」としました。

外部環境要因(道路緑化技術基準の改定や都市公園の樹木の点検・診断に関する指針(案)の策定、グリーンインフラの定着など)、組織特性とありたい姿(探求心を持つ技術者集団であるなど)から、ビジョン策定の検討を行いました。先に開催した国際シンポジウムからも多くのヒントを得ました。これまで樹木に焦点をあてた取り組みが主でしたが、都市の緑の重要性を戦略的に広報するためには、地域コミュニティとの関係性が重要となり、樹木診断者のさらなる育成(コミュニケーション力を含む)を図っていく必要があることから、都市樹木というキーワードに加え、人との関係性も重要視しました。

ビジョンを実現するための取り組みとして「アーバンフォレスト推進」「楽しく活力ある人材と企業の集まり」「樹木医と街路樹診断士の活躍の場を広げる」「技術とコミュニケーション」の4つを掲げました。これらの取り組みは一朝一夕でできるものではありません。委員会の構成を見直し、地域が偏らないこと、若手に参画を促すことで各取り組みを実現していきたいと考えます。

「活力ある都市樹木と人材を育み、アーバンフォレストを生み出す」

We bring up vital urban trees and human resources and create an urban forest.

＜新ビジョンを実現するための4つの取り組み＞

1. アーバンフォレスト推進

- a 都市樹木によるグリーンインフラ政策の推進
- b 健全で安全な樹木による緑あふれる都市の形成
- c 快適でクリエイティブな都市づくりに向けて

2. 楽しく活力ある人材と企業の集まり

- a 面白く楽しくやりがいある活動
- b 自由なスタイル
- c いきいきとした会員による活動
- d 会員企業の技術向上、収益向上に資する

3. 樹木医と診断士の活躍の場を広げる

- a 「やりたい仕事」と思える活動
- b 若者が参入したくなる土俵づくり
- c より広い活躍の場の提供

4. 技術とコミュニケーション

- a 納得性ある説明を可能とする技術の蓄積
- b 最先端技術への取り組み
- c 行政とステークホルダーの仲介役
- d ディスクローズと分かりやすい説明

当協会がこれまで実施してきた重要テーマは、さらに次元を高めて継続していくことが望めます。また新たなビジョンを推進するに当たり、必要と考えられる新規取り組み課題もあります。

①街路樹診断士の育成

診断士講習と資格審査の継続。誤診や倫理的問題が生じない診断士の育成が望めます。

②研修会の定期開催

街路樹診断協会員は高い技術力が備わった集団であることがコア・コンピタンス(core competence、中核となる強み)となります。高度なレベルの研修が本部・支部で開催され、志の高い技術者の養成が望めます。

③各地におけるマニュアル作成協力

診断は全国に広まりそれぞれの自治体で診断マニュアルの作成が行われています。東京都の診断マニュアルの作成には、創業期から協力してきた経緯もあります。その実績を踏まえ、各地においてマニュアル作成に協力し、正しい診断手法が全国に広まるように努めます。

④出版事業

診断の普及と当協会の認知と信頼性を高める上で、専門書の刊行は効果的な手法となります。国際シンポジウムを踏まえ、アーバンフォレストに関する一般販売本の出版を検討してきましたが、本腰を入れて取り組みます。また20周年を記念して内部向けに記録本の発行も行います。

⑤会報の継続発行

当協会会報のレベルは高いと考えられ情報共有と活性化のために継続を予定しています。また、会報をプロモーションに活用することも検討します。

⑥他団体との連携

協会活動の円滑化やイベント集客を図る上でも、関連団体とは良好な関係を保つ必要があります。技術提携やイベント共同開催などの実施、定期的な意見交換などで関係団体との連携強化を図ります。

■第11期事業計画

新ビジョン推進のための取り組みを盛り込み、以下の内容を重点課題として第11期事業計画が承認されました。

1) アーバンフォレストの推進

樹木の健全な育成を図りアーバンフォレストを実現するために、樹木保護区域(TPZ・CRZ)の指針作りと場面に応じたりスク分類手法の確立が必要であり、これらの新たな基準の開発を外部機関と連携して行います。

2) 楽しく活力ある人材と企業の集まり

業務のみでは得られない情報入手と他社との交流が得られるのが協会活動の利点であり、委員所属会社からも協会活動に対しての理解が得られるように情報発信に努めます。

3) 樹木医と街路樹診断士の活躍の場を広げる

欧米では樹木保護区域(TPZ・CRZ)の基準と指針が確立されており、その区域に関わる行為には、樹木保護の観点から樹木保護技術者の関与が定められています。日本でも当協会が主体となり、新たな基準づくりを推進し、樹木医や街路樹診断士の活躍の場の広がりを目指します。

4) 診断士の技術と信頼性の向上

資格認定制度をより厳格化し診断士の技術精度の向上を図り、発注者やステークホルダーからの、より高い信頼感の醸成を図ります。同時に研修活動をより高度に継続します。

5) 技術とコミュニケーション

アーバンフォレストは、管理者と技術者のみでは成し得ない政策です。広く市民との関わり(市民協働)が求

められています。そのためには、技術とエビデンス(evidence、論拠)の根幹となるデータの収集とわかりやすい開示が必要です。加えて、協会活動の拠点を増やすことで、地域における情報発信力の強化を図ります。

6) 委員会組織構成の変更

①広報委員会ならびに出版委員会の新設

樹木診断やアーバンフォレストの普及を図ると同時に、当協会の認知とポジショニング(診断だけにとどまらない)を示す上で、広報の役割は大きいと考えられます。新たな出版物も発行検討を進めます。

このため今期において広報委員会を新設し体制強化を図ります。出版委員会を広報委員会内に置きます。予定出版物は「アーバンフォレストの啓発本(一般販売)」や当協会の生い立ちを記録した「20周年記念誌(会員向け)」などを想定しています。なお、出版は機会があるたびに特別委員会を招集して行います。

②委員会の役割明確化

委員会の活動を活発化し円滑な運営を図る目的で、委員会の役割を明記します。これまで通りテーマ遂行にあたり委員会を超えての協力は欠かせません。そのため、大きなテーマを実施する際には、特別委員会を組織し対処します。

■各委員会事業計画

1) 事業委員会(25周年実行委員会)

- ①新支部設立に向けた市場調査
- ②都市防災美化協会委員会への参加
- ③植栽基盤診断士を認定する一般社団法人日本造園建設業協会など関係団体との意見交換

2) 技術委員会

- ①技術委員会の開催と国内における診断データ公開を踏まえた海外技術情報の入手
- ②外部機関との共同研究または研究委託の検討
- ③高い技術力と志を持った技術者育成のため研修会開催
- ④第24回樹木医学会発表

3) 広報委員会(出版委員会)

- ①会報「GAISHIN NEWS」の継続発行
- ②協会ホームページ改訂の検討
- ③国際シンポジウムを踏まえた一般販売本の出版(出版委員会)
- ④協会設立20周年を記念した協会史の出版準備(出版委員会)

4) 街路樹診断士認定委員会

- ①街路樹診断士認定講習の高度化と試験制度の厳格化
- ②第11回 街路樹診断士認定事業の実施
- ③街路樹診断士更新講習の実施

5) 資格審査認定委員会

- ①ビジョンに賛同する加入希望団体等の審査

■支部事業活動

1) 各支部診断事業

各自治体における診断事業品質確保の要請対応として支部における診断事業の受注を進めます。

20年を振り返って

神庭正則(前会長)



街路樹診断協会が設立して満20年が経ちました。

街路樹診断は、樹木管理の中では、新しい事業分野です。活力、病虫害、その後に、土壌、根系調査等が長い間一般的に使われてきた樹木の調査項目でしたが、その中に「樹木の折損や倒木等の危険性の判定」となる“診断”という言葉が生まれました。中でもこの街路樹診断という新たな分野が生まれ全国に広がりました。20年と言うとひと昔前となりますが、あっという間に過ぎたようでもあり、いろいろなことがございました。

まず、この診断協会が生まれるまでの話、そして今までのことを説明させていただきます。まず1990年代にさかのぼります。海外でVTA(Visual Tree Assessment)という“言葉”が生まれ、アメリカを拠点として欧米で急激に広がりました。もともと“VTA”はドイツのマテック博士が樹体の構造と反応の特徴ある“表情(ボディーランゲージ)”を研究し、欧米で発表したものです。そして、マテック博士が1993年に“Body language of Trees”という本にまとめ出版しました。樹木管理の先進国は飛びつきました。

日本にはどのようにもたらされたかと言いますと、その1年前の1992年、当時東京農工大学の渡辺直明先生が数名の樹木医と会合した際に、「欧米ではVTAやレジストグラフという機械があって樹木の倒木危険度を調査しているよ」と伝えてくださいました。それはマテック博士が、機器メーカーのフンガー氏と共にドイツで診断機器(レジストグラフ)を開発した、まさにその時点の情報がもたらされたということになります。

そういった中で、日本では情報が入って4年後の1996年に、現在の協会員である(株)東邦レオと(株)エコルがレジストグラフを独自ルートでほぼ同時期に入手し2社それぞれのデータ収集が始まりましたが、渡辺直明先生を中心に、樹木診断や倒木危険度に関心を持った人(会社)が共同してレジストグラフを使いVTA、内部の空洞を測り検証しようと“レジストグラフ研究会”ができました。東京農工大の草木演習林の中で、伐採を必要とする樹木がたくさんあったことを利用して、レジストグラフの結果がどのように表れるかといった実験を行い、樹木医学会の前身である樹木医学研究会で3回、その都度研究発表を行いました。

そのような流れの中で1998年、東京都がレジストグラフによる診断を試験的に発注しました。皇居周辺のシダレヤナギ、プラタナスです。その診断事業を積極的に推し進めたのが当時東京都第一建設事務所にいらした山本三郎氏で、その後事業化され、都内各地の都道で街路樹診断が発注されました。その際に、その事業の受注側では診断技術力が高く一定の診断レベル以上であることは必須であるため、1998年8月、11社で街路樹診断協会が発足しました。協会では技術力の向上、会員の診断技術の平準化を主目的に活動し20年が経ちました。

また、新たな診断技術および情報の入手のために、20年の間に、翻訳出版を行ってまいりました。2004年からだったと思いますが、マテック博士の「樹木のボディーランゲージ入門」「物が壊れるしくみ」「最新樹木の危険度診断入門」を、会費を利用させていただきまして出版いたしました。その後、2003年にアメリカの農務省森林局からガイドラインとして発行された「Urban Tree Risk Management: A Community Guide To Program Design and Implementation」を2011年に翻訳して(権利の関係で会員の皆さまにしかお渡しできないのですが)出しています。出版によって、広く日本中に“樹木の危険度診断”を知ってもらうという活動をしてきました。

その他皆さんご存じのように、2003年5月、5周年記念事業で「マテック博士講演会 一樹木からのメッセージに耳を傾けよう」、2008年6月、10周年記念事業として国際シンポジウム「世界の樹木管理とリスクマネジメント 一都市における樹木との共生」を開催。国際シンポジウムではマテック博士の研究室同僚のウィ

テック氏に「ドイツにおける倒木事故の裁判事例」、これはVTAという診断判定結果を基準にして、危険を察知できなかったか否かということが争点になったということで、加害者はだれかといった、診断・判定が正しく行われたかがまさに裁判で問われることについての講演をしていただきました。アメリカからはスマイリー博士(ISA研究部門のヘッドの方)に来ていただき、アメリカにおけるツリーリスクマネジメントについて、中国からは北京五輪を控えてハン氏に北京の都市緑化の状況をお話いただきました。

協会はより社会的責任を果たすべく2009年に一般社団法人化し、その記念の「ボンド博士講演会 ―アメリカの樹木管理や計画における、技術的な最新情報―」では「i-Tree」というシステムを紹介していただきました。樹木の経済的価値を数値化し(二酸化炭素の吸収、気温調整機能等)経済的な観点で樹木を評価するシステムでした。

今年は20周年記念としてオーストラリアからイアン氏、アメリカからはスマイリー博士、日本からは飯塚氏(国総研)にお越しいただいて国際シンポジウム「世界のアーバンフォレスト政策と樹木のマネジメント ―世界の潮流に学ぶ都市樹木のあるべき姿とリスクマネジメント―」を開きました。このように、新しい技術をいち早く導入し展開してきた20年であったと思います。倒木で人、家屋や車等の財産に対する危険を排除するために樹木がどんな状態であるか、倒木による裁判など日本でもこれから倒木危険度診断が的確に行われるということは社会的に大変価値のある活動です。これからも技術を高めつつ進めてゆくことが私たち協会の責任でもあります。さらに今年のシンポジウムではメルボルン市の緑戦略(政策)として、“アーバンフォレスト”という言葉が私たちにもたらされました。世界的な異常気象や都市でのヒートアイランドといった現象に対して、都市樹木の価値をi-Treeを使用し、剪定の量、樹種選びといった分野で再度考え直すなくてはならないという警鐘でもあったと思います。

このように20年を経て、これから始まる新たなステージを加えての、さらなる発展を祈念いたします。

国際シンポジウム

世界のアーバンフォレスト政策と樹木のマネジメント

～世界の潮流に学ぶ都市樹木のあるべき姿とリスクマネジメント～

会場風景

東京会場



大阪会場



福岡会場



福岡
レセプション



日比谷公園ガーデニングショーに出展

2019年10月19日(土)から27日(日)まで日比谷公園で開催された「第17回日比谷公園ガーデニングショー2019」のテントブースに出展しました。樹木診断の必要性和方法、街路樹診断士について、出版物の紹介、学会発表について、クビアカツヤカミキリについてのパネル、腐朽や倒木被害の写真を展示し街路樹診断と当協会の活動をPRしました。ブース管理と来訪者対応に当たっていただいた皆さまにお礼申し上げます。

ブースに来ていただいた方は、街路樹診断や倒木被害などに関心をお持ちで、こちらから声をかけることで、質問をしてもらえ、さらに会話が発展して時間をかけてパネルや写真を見てもらえることが多かったようです。新ビジョンでは、地域コミュニティとの関係性が重要でコミュニケーション力を含む樹木診断者のさらなる育成を図ることが必要とあっており、このブースはまさに多くの一般の方々とふれ合う場で説明の機会と捉えることができます。

日比谷公園ガーデニングショーは、「未来(あした)へつなごう 花とみどりの輪」をテーマに広く市民、企業、団体等の参加を得てガーデニングショーを開催し、日比谷公園から「花と緑・環境」のメッセージを世界に発信するとともに、これからの都市における「花と緑のライフスタイル」を提案する。また、2020年のオリンピック・パラリンピックに向け、個人や企業、公共の緑が繋がり、東京がガーデンシティ(庭園都市)として世界の人々を「おもてなし」とするとともに、都市の花とみどりのあり方を広く発信する契機



とすることを開催趣旨としています。今年は雨の影響を受ける日もありましたが、ガーデンコンテスト、グルメキッチンカー、都立農芸高校生と都立農業高校生が育てた花苗の配布、ツリークライミング体験など様々なイベント・講習が行われました。

協会の歩み点描



東京・水元公園にて根株診断の研究(2002年)



迎賓館前ユリノキ根株調査(2002年2月)

倒木事故を撲滅するには、根株の状況把握が必要。協会では発足直後からこのことに着目しており、根株診断方法の確立を課題とし取り組む。2001年からは東京都と共同で取り組むようになった。

現在は一定の根株診断の方法を示し、多くの業務が進められている。より正確な根株診断方法を求めて調査研究を引き続き行っている。

一般公開研修会 街路樹診断協会研修会を開催

2019年9月12日、街路樹診断協会研修会を清澄庭園大正記念館(東京都江東区)で開催し、「街路樹診断の概要説明 街路樹診断の成り立ちと近年の動向」、「東京都道の街路樹維持管理方針と街路樹診断および大径木再生指針の解説」、「街路樹に関わる病害虫の動向」の3つの講義を行いました。

講義に先立ち山下副会長から、首都圏を通過した9日の台風15号による都市樹木の倒木被害状況を目の当たりにし、街路樹診断士の技術と診断精度の向上がこれまで以上に求められること、国際シンポジウム「世界のアーバンフォレスト政策と樹木のマネジメント」の成果を踏まえて、今後、協会としてグリーンインフラ等、都市樹木のあり方についても考えていく、と話がありました。



講習1「街路樹診断の概要説明 街路樹診断の成り立ちと近年の動向」

永石技術委員長(当時)

主な内容は協会設立の経緯と役割、診断事業開始当時から今日までの診断方法の変遷、診断にあたっての注意事項、診断の今後の展開でした。今回の台風15号による倒木事例では、クラウド・マテック博士の16年前の講演会ですでに紹介されていたバナナクラックからの枝割れ、入皮からの幹裂けによるものが多かった等の解説もありました。グリーンインフラを保守する技術としての診断技術は非常に重要であり、診断を担う立場の責任も増していることを確認しました。

講習2「東京都道の街路樹維持管理方針と街路樹診断および大径木再生指針の解説」

土居裕子氏 東京都建設局公園緑地部計画課 課長代理(道路緑化計画担当)

東京都の街路樹維持管理に対する取り組みについて、ご紹介いただきました。

街路樹管理と整備についての課題、防災機能に特化した診断「大径木再生大作戦」については、管理する側で感じる課題と、診断する側で感じる課題に意識のズレがないかを、改めて確認する機会となりました。維持管理・整備・防災機能強化のいずれにおいても、今後の展開の前提として「街路樹自体が健全でなければならない」ことが強調されました。

「平成26年度 街路樹診断マニュアル」の内容に沿って、診断を依頼する立場からの注意事項、「大径木再生大作戦」の根株診断の詳細など、診断現場で必要な情報も解説されました。

また、東京都ではすでに診断カルテのデータベース化に着手していること、昨年度より剪定に関する入札方法が従来の価格競争による一般入札ではなく、剪定技術に重点を置いた評価方式による入札に変更したことなど、受注に関わる重要な話もあり、講習後は、入札に関することや樹木診断の情報共有についての質疑応答が行われました。

講習3「街路樹に関わる病害虫の動向」

小林明氏(一社)日本樹木医会東京都支部理事

害虫(クビアカツヤカミキリ、クスベニヒラタカスミカメなど)、病気、今後の留意点についての講義が行われました。発生状況や防除の方法について、スライドによる事例紹介、途中には豆知識として診断者が覚えておきたい内容が盛り込まれ、現場で役立つ有意義な内容でした。

また、地球温暖化や物流の増加などにより、新たな外来種の病害虫が出現する可能性は高く、今後ますます

支部・本部の動き

2019年1月～10月

関西支部

1) 国際シンポジウム実行委員会

- 1月19日(土) 支部実行委員会
1月28日(月) 本部第7回実行委員会にスカイプ参加
2月 9日(土) 支部実行委員会
2月28日(木) 本部第8回実行委員会にスカイプ参加
3月 8日(金) 会場(ドーンセンター)下見
3月 9日(土) 支部実行委員会
4月 5日(金) 本部第9回実行委員会にスカイプ参加
4月13日(土) 支部実行委員会
5月 9日(木) 本部第10回実行委員会にスカイプ参加
5月11日(土) 支部実行委員会

2) 研修事業

① 国際シンポジウム「世界のアーバンフォレスト政策と樹木のマネジメント」

日 時：5月24日(金)

場 所：ドーンセンター

主 催：(一社)街路樹診断協会、NPO法人おおさか緑と樹木の診断協会

講 師：メルボルン市役所アーバンフォレスト・グリーンインフラストラクチャ担当部長 イアン・シアーズ 氏
「メルボルン市のアーバンフォレスト政策について」

米国バートレットツリーリサーチラボラトリーズ トーマス・スマイリー 博士

「北米でのアーバンフォレスト政策と樹木保護制度、リスクアセスメントについて」

国土交通省国土技術政策総合研究所主任研究官 飯塚康雄 氏

「日本の都市樹木が抱える課題と解決技術」

② インターナショナルイベント第2弾 「ニューヨーク市の街路樹政策を学ぶ/我々の今後の取り組み」

日 時：6月29日(土)

場 所：サンケイカンファレンス大阪梅田桜橋

主 催：(一社)街路樹診断協会、NPO法人おおさか緑と樹木の診断協会

講 師：ニューヨーク市公園局都市計画GISスペシャリスト 島田智里 氏
「ニューヨーク市役所の街路樹政策について」

③ インターナショナルイベント第3弾 「アメリカのアーバンフォレスト戦略とi-Treeに学ぶ、これから求められる都市樹木のあるべき姿とは」

日 時：9月17日(火)

場 所：大阪産業大学 大阪梅田サテライトキャンパス

主 催：(一社)街路樹診断協会、NPO法人おおさか緑と樹木の診断協会、日本樹木医会大阪府支部

講 師：米国農務省森林局及びThe Davey Institute所属 平林聡 氏
「アメリカのアーバンフォレスト戦略とi-Treeについて」

東邦レオ株式会社 和田清栄 氏

「日本のi-Tree事例紹介」

3) 診断事業

①株式会社村田製作所よりアカマツの再診断を受託

場 所：滋賀県八日市市

期 間：2019年1月末

②茨木市より元茨木川緑地樹木健全度調査業務委託を受託

元茨木川緑地のリニューアルに伴う樹木診断業務

場 所：大阪府茨木市

期 間：2019年10月から2021年3月30日(2か年度)

③尼崎市より樹木診断業務の見積依頼

尼崎市内の街路樹、公園樹の診断業務の事業化に向けた基礎資料として見積の依頼

場 所：兵庫県尼崎市

期 間：2019年10月

—今後の予定—

①茨木市診断業務の実施。今年度分は2020年3月末まで

②株式会社村田製作所のアカマツ診断業務の実施

③街路樹診断研修の実施

④支部会の開催

九州支部

1) 本部理事会出席

①第3回 理事会(スカイプ参加 飯田、三宮)

日 時：1月28日(月)16:00～18:00

場 所：TKP八重洲カンファレンスセンター

②第4回 理事会(スカイプ参加 飯田、三宮)

日 時：7月25日(木)15:00～18:00

場 所：TKP品川港南口会議室カンファレンスルーム

2) 国際シンポジウム九州支部実行委員会

①第2回 九州支部 実行委員会

日 時：1月19日(土)16:00～18:00

場 所：リファレンス駅東ビル

②第3回 九州支部 実行委員会

日 時：3月8日(金)15:00～17:00

場 所：北九州緑化協会

③第4回 九州支部 実行委員会

日 時：4月6日(土)15:00～18:00

場 所：リファレンス駅東

④第5回 九州支部 実行委員会

日 時：5月9日(木)15:00～18:00

場 所：リファレンス駅東(スカイプ会議)

⑤第6回 九州支部 全体会議

日 時：5月10日(金)15:00～18:00

場 所：リファレンス駅東

⑥第7回 九州支部 実行委員会 反省会

日 時：6月15日(土)17:00～19:00

場 所：リファレンス駅東

【研修会の開催】**第10期 第1回 内部研修会**

日 時：3月24日(日)10:00～17:00

場 所：福岡県春日市原町3-1-7 クローバープラザ

内 容：屋外研修 「樹木内部欠陥簡易診断装置」 10:00～12:00

屋内研修 「樹木内部欠陥簡易診断装置」 13:00～17:00

【診断事業】**①国営沖縄記念公園 樹木精密診断業務**

発注者：一般財団法人沖縄美ら島財団

件 名：海洋博公園におけるレジストグラフ・ピカスを用いた樹木の診断調査

期 間：2018年12月から2019年1月まで

業務概要：精密診断 80本

②虹の松原線 松原診断

発注者：朝日テクノ株式会社

件 名：虹の松原線 道路防災対策委託(松原診断)

期 間：2018年9月から2019年3月まで

業務概要：予備診断900本、外観診断84本

③平成30年度 街路樹診断業務

発注者：日田市

件 名：街路樹診断業務

期 間：2018年12月から2019年1月まで

業務概要：外観診断161本、精密診断(貫入抵抗測定)27本

④平成30年度 福岡市街路樹精密診断業務

発注者：一般社団法人福岡県樹木医会

件 名：平成30年度 街路樹調査業務委託

期 間：2019年2月から2019年3月まで

業務概要：精密診断(貫入抵抗測定)46本、精密診断(弾性波測定)41本

⑤北九州市街路樹精密診断業務

発注者：菅原造園建設株式会社

件 名：中央公園他樹木精密診断業務

期 間：2019年2月から2019年3月まで

業務概要：精密診断(貫入抵抗測定)24本、精密診断(弾性波測定)4本

【広報活動】

①福岡県造園業協会機関紙「エバーグリーン」リレー掲載 平成31年43号

「第22回」2019年1月 中西信雄

②福岡県造園業協会機関紙「エバーグリーン」リレー掲載 令和1年44号

「第23回」2019年8月 岩熊直樹

—今後の予定—

第14回樹木危険度診断講習会

日 時：2020年(令和2年)6月25日(木)10:00～16:30

午前：屋内講義／午後：野外研修

場 所：沖縄県那覇市

*翌、26日(金)は九州支部沖縄県会員によるエクスカージョンを予定しています。

普段、観光では行かないところも予定していますので、関東支部、関西支部の皆さま、奮ってご参加ください！

研修会の詳細は、決定し次第ご案内します。

本部

【理事会】

(10期)

1月28日(月) 第3 回理事会 国際シンポジウム関連

7月25日(木) 第4 回理事会 事業実施状況確認

(11期)

10月15日(火) 第1回理事会 第11回総会議案審議

10月25日(金) 第2回理事会 総会前理事会

【技術委員会】

6月21日(金) 街路樹診断技術研修会

「国際シンポジウムの開催報告と街路樹診断GIS利用の新たな展開に向けて」

6月27日(木) 第2回技術委員会

9月12日(木) 街路樹診断研修会(一般参加)

【国際シンポジウム実行委員会】

1月28日(月) 第7回実行委員会

2月28日(木) 第8回実行委員会

4月 5日(金) 第9回実行委員会

5月 9日(木) 第10回実行委員会

【国際シンポジウム開催】

(東京会場) 5月20日(月) 東京ビックサイト国際会議場

(福岡会場) 5月22日(水) エルガーラ大ホール

(大阪会場) 5月24日(金) ドーンセンター

【事業委員会】

4月23日(火) 都市防災美化協会 委員会オブザーバ参加

10月19日(土)～10月27日(日) 日比谷公園ガーデニングショー

場 所：東京都日比谷公園 ガーデニングショー展示ブース内

【街路樹診断士認定委員】

①街路樹診断士認定委員会開催(合計4回)

8月22日(木)から8月23日(金)まで 認定講習会および認定試験

②街路樹診断士ブラッシュアップ研修(街路樹診断士認定講習における開催)

—今後の予定—

2020年

1月 理事会

5月 街路樹診断士認定委員会

7月 理事会

8月 街路樹診断士認定委員会 第11回街路樹診断士認定事業実施

新入会員紹介

●関東支部:正会員6 団体会員1 賛助会員1

(正会員) 株式会社アカネ 東京都港区芝大門一丁目3 番15 号

(正会員) 株式会社三商 東京都中央区日本橋人形町一丁目3 番6 号

(正会員) 東友緑化株式会社 東京都台東区元浅草3 丁目20 番4 号

(正会員) 株式会社八廣園 埼玉県川口市大字西立野187番地

(正会員) 株式会社Midoru 東京都西多摩郡瑞穂町大字二本木658番地9

(正会員) 株式会社横山園芸 埼玉県川口市安行原2306番地

(団体会員) 一般社団法人 緑の音研究所 神奈川県相模原市緑区向原1-15-19

(賛助会員) ヘイフォス合同会社 埼玉県さいたま市見沼区春野1-3-1-607

●関西支部:正会員1

(正会員) 株式会社景樹園 滋賀県米原市宇賀野1188番地

会員数(2019年8月現在) 112

・正会員 75(関東支部 43/ 関西支部 11/ 九州支部 21)

・団体会員 1

・賛助会員(法人・個人含む) 35

・賛助会員(海外) 1

一般社団法人 街路樹診断協会

関西支部

〒550-0002 大阪府大阪市西区江戸堀1-8-14 (株)日比谷アメニス内
TEL・FAX:06-6444-3990

九州支部

〒808-0124 福岡県北九州市若松区大字安屋900番地11
一般社団法人 北九州緑化協会会館内
TEL・FAX:093-741-0022

北陸連絡事務所

〒939-8253 富山県富山市新保271 (株)野上緑化内
TEL:076-429-1310 FAX:076-429-4374

台湾連絡事務所

一般社団法人 街路樹診断協会 台湾籌備處
台北市四維路176巷2號1樓
TEL:+886 02-2325-6911